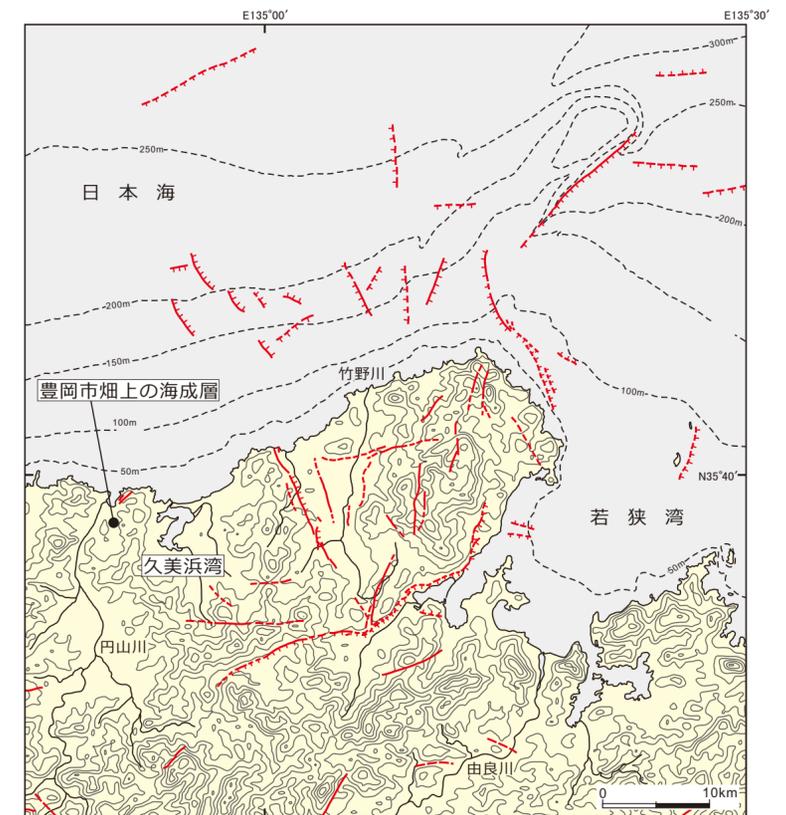


丹後半島周辺の最終間氷期 (MIS5e) に形成された海岸段丘や海成層の分布高度から活構造を推定する

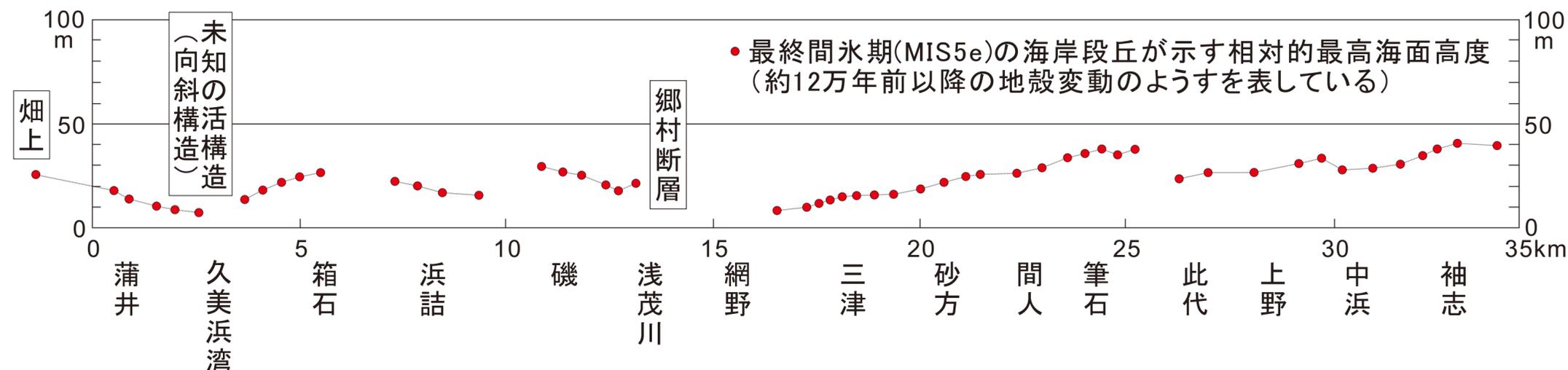


自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ 加藤 茂弘

丹後半島周辺の日本海沿岸には、12～13万年前の最終間氷期 (MIS5e) に形成された海岸段丘が標高5～40mに分布しています。一方、円山川下流付近の豊岡市畑上には標高25mの高さまで海成粘土層が分布しており、本層から産出したハイガイ化石の貝殻からは電子スピン共鳴 (Electron Spin Resonance; ESR) 法により9.6～14.0万年前の年代が得られました。貝化石の種類に基づくところこの海成粘土層は最終間氷期に潮間帯付近で堆積した地層であると推定され、標高5m前後とされた当時の海面が現在は20mほど隆起した位置にあることがわかりました。畑上の海成粘土層や海岸段丘が示す最終間氷期の最高海面の現在の高度 (相対的 最高海面高度) は、日本海沿岸に沿ってみると、郷村断層付近だけでなく久美浜湾付近でも大きく低下していることがわかります。このことから、久美浜湾付近にも大地震を起こし大地を隆起・沈降させる構造 (活構造) が存在している可能性が考えられます。



丹後半島周辺の活断層の分布と豊岡市畑上の最終間氷期の海成粘土層の分布位置



豊岡市畑上の海成粘土層から採取したハイガイ化石。貝殻から9.6～14.0万年前のESR年代が得られた。